

事業報告書（令和5年度）

事業名 たけべ空き家活用プロジェクト

団体名 たけべ家おこしプロジェクト 担当者名 大塚愛

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

| 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等） |
|--|
| <p>1.パンフレット作成会議 6月15日、7月26日、8月25日、9月29日 場所:建部町公民館 参加人数:5~6名 建部町および御津地区で、空き家の活用を促すためのパフレットの内容について話しあった。</p> <p>2.パンフレットの配布 11月30日:建部支所で開催された連合町内会長の会議でパンフレットを紹介し、配布方法を相談。町内会ごとに分けて支所に届け、12月上旬に支所から各町内会長に分配し、年末年始に建部町全戸および空き家となっている家に配布。御津地域でも複数の町内会にて配布。</p> <p>3.学習会 1月18日13時半~16時 場所:建部町公民館 講師:石田信治さん「空き家になる前の空き家対策」 講演とグループトーク、個別相談会 参加者:35名</p> |
| 2. ESDの視点 |
| <p>① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 現在空き家になっている家や自宅の将来について、必要な情報を得ながら主体的に考える機会を提供したことで、空き家問題は個人的な問題にとどまらず、持続可能な地域づくりに欠かせないという意識を共有することができた。</p> |
| <p>② どのように学び合いを取り入れたか パンフレットづくりでは、効果的な内容となるよう空き家にまつわる情報収集をしながら、何度も話し合いを行った。学習会では講師からの情報提供を得た上で、グループに分かれて個々の問題意識を共有し話し合うことで、情報交換や解決に向けた話し合いができたり、グループ内で課題を共有することで、地域の問題としての捉える機会を持つことができた。</p> |
| <p>③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか パンフレットや学習会で空き家バンクや相談窓口、地域の事例を周知することによって、空き家についての検討に必要な行動を促す工夫をした。</p> |

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

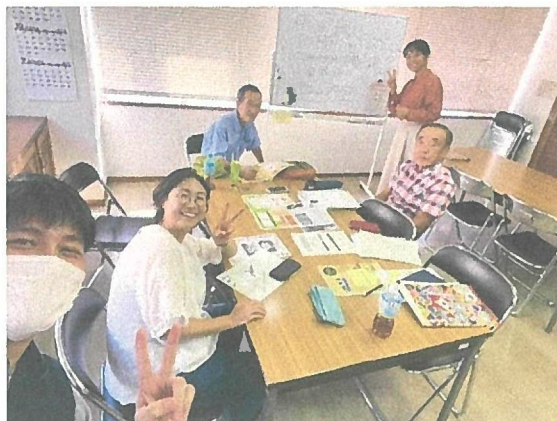
学習会のアンケートからは、将来の自宅について不安があると回答の方が4分の1いたが、学習会によっておられたが、様々な情報が参考になって勉強できたという感想が多かった。空き家バンクの存在を初めて知ったという声も多かった。また、パンフレット配布や学習会を行った後、建部支所の空き家サポート窓口へ相談が来るようになったり、パンフレットを見た人から当会に相談があった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

過疎地域において、移住定住促進は地域活性化や持続可能性にとって重要な要素であり、そのために空き家活用は欠かせない。空き家となる家が増えつつある中、その問題に目をつぶって負の遺産にしてしまうのではなく、新しい住人の受け皿にしていくための取り組みが必要であることから、今事業で作成した啓発資材を活かしながら、引き続き地域の有志による空き家の活用促進と移住支援に寄与する活動を続けていきたい。

活動写真

パンフレット作成会議(8月25日)



学習会(1月18日)

